

目標に向けた取組についての自己評価

重点領域 1		確かな学力の向上			
項目	努力指標（教師側）	達成度	成果指標（こども側）	達成度	評価
1	「こうとう学びスタンダード」を実践しわかる授業の工夫、授業規律の確立を全教員が実施する。「チャレンジウエズデー」を通して、自ら学ぶ意欲を向上させる。	100%	スタンダード（3教科・体力）の定着が見られた生徒、主体的に学ぶ意欲が見られた生徒をともに90%以上にする。	102%	A
2	全学年朝読書の設定、司書と連携し、図書室を利用する生徒を拡大する。各種検定試験に積極的に受験させ、裏付けのある自信を育成する。	100%	日常生活で読書をするのが身に付いた生徒を80%以上にする。各種検定の3級合格者を受験者の15%にする。	88%	B
3	オンライン教材を活用し、一人一人の理解度を把握した授業展開に努め、生徒個々に達成感を味わわせる指導法を工夫・改善する。	88%	タブレットを積極的に活用し、主体的に学習に取り組み、達成感・成就感を得た生徒を90%以上にする。	90%	A
<p><結果についての分析と改善策></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「こうとう学びスタンダード」は概ね定着している。教師は生徒の主体的な学習活動を取り組ませるとともに、学習課題の精選、工夫・改善に努める。 ・学校図書館を校内で移転して、広いスペースで活用できるようになった。図書館の利用者も増加した。各種調査に関しても、運営を地域学校協働本部に移管して、英検対策など充実した。次年度も引き続き、裏付けのある自信を育成する。 ・「授業が分かる」とアンケートに回答した生徒は多いが、学習が身に付いているとは言い難い。各教科の指導において、タブレットを効果的に活用し、主体的に学習に取り組める生徒を育成する。教師のICTに関する研修等も積極的に行う。 					

重点領域 2		豊かな心と健康な身体の育成			
項目	努力指標（教師側）	達成度	成果指標（こども側）	達成度	評価
1	あいさつ、時間厳守、服装、持ち物等の指導を登校時、学活、集会等で徹底する。	100%	登校時等であいさつができる生徒を90%以上にする。「学び方スタンダード」の定着率を80%以上にする。	95%	A
2	教育相談を充実させ、家庭・関係機関との連携を図りながら、不登校生徒の減少と学級への早期復帰を図る。また、SOSの出し方指導を通して、生命の大切さを学ばせる。	92%	不登校生徒の発生率を前年の半分以下にし、その生徒の復帰率を20%以上にする。	20%	C
3	全校集会での講話、学級指導、道徳授業での規範意識に関する指導を充実させる。	100%	家庭や学校の決まりごとを守っている生徒を90%以上にする。	100%	A
<p><結果についての分析と改善策></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「あいさつ」「時間厳守」「身だしなみ」等の励行に関しては、生徒会本部・生活委員会などが中心に全校で取り組んでおり定着してきている。今後は、さらに主体的に取り組めるように指導する。 ・基本的な生活習慣が定着していない生徒が散見され、家庭との連携が必要だと強く感じている。不登校生徒の発生率は7%を超え、昨年度よりも悪化した。SCやSSWとの連携をさらに強化して、不登校別室支援員を効果的に活用して学校復帰を働きかける。またブリッジスクール・フリースクール等の関係機関との連携に努める。 ・生徒の回答結果は肯定的だが、生徒間ではなお、「SNS」等によるトラブルが後を絶たない。あらゆる場面で、生徒の規範意識を向上させる指導に努め、各家庭・地域とも連携した生徒の健全育成を図る。 					

重点領域3		特別活動の活性化・委員会活動や部活動の充実			
項目	努力指標（教師側）	達成度	成果指標（こども側）	達成度	評語
1	全生徒に活躍させる機会を作る指導を実践する。	96%	活躍した体験1回以上の生徒を90%以上にする。	76%	B
2	生徒が主体的に取り組み、達成感を味わわせる学校行事・学年行事を実施する。	100%	行事に主体的に取り組み、達成感・成就感を得た生徒を90%以上にする。	101%	A
3	地域と連携して、部活動を通した生徒の向上心を育成する。	96%	部活動が励みになる生徒を90%以上にし、参加率を85%以上にする。	87%	B

<結果についての分析と改善策>

- ・教師側としては、個々の生徒に対しては積極性・リーダー性の育成に努めている。今後は、学年・学級全体での指導を通して前向きな雰囲気づくりから始め、生徒一人一人の自己肯定感を醸成させ、長所を伸ばし意欲を向上させる指導に努める。
- ・今年度はコロナ以前の学校行事に即して、工夫・改善に努めながら実施した。生徒たちは主体的に行事に取り組み、達成感を得てその経験を自己の学校生活に生かしている。さらには、成功体験を積ませることにより、自己有用感を育ませる。
- ・生徒は部活動に積極的に参加し、自己の向上心が高まっている。また、今後は部活動の「地域移行」や「他校との合同での活動」なども視野に入れながら、各部の活動内容を精査して部活動の充実を図る。

重点領域4		家庭・地域と連携した健全育成			
項目	努力指標（教師側）	達成度	成果指標（こども側）	達成度	評語
1	学校HPの内容を充実させ、更新頻度を高め、学校だより・各種通信等を定期的に発行する。また、生徒の課題等をオンラインで実施し、家庭と連携した学習を展開する。	92%	学校だより・HP等から「学校の様子が分かる」という保護者を95%以上にする。	79%	B
2	保護者、地域住民の学校行事、交流活動の参加人数の増加を図る。	92%	学校行事や保護者会等に参加する保護者を80%以上にする。	108%	A
3	地域学校協働本部の活動を活性化させ、「二親会」「おやじの会」の協力を得ながら、生徒の健全育成を図る。	96%	地域行事を通して培った地域への帰属感を70%以上にする。	28%	C

<結果についての分析と改善策>

- ・学校としては情報発信の充実に努め、保護者・地域に対して教育活動への理解・協力を促している。HPの内容を精選しさらに見やすくする等組織的な情報発信に心がける。また、クロームブックや緊急時一斉メールを通して連絡手段をより効果的に活用し、内容の工夫・改善を図る。
- ・今年度は予定通りに学校行事を行った。そのため、「学校公開」をはじめ学校行事に多くの保護者・地域の方々が来校し、本校の教育活動を参観する機会を設けることができた。その際のアンケート結果等を参考にして今後の学校改善に生かしていきたい。
- ・地域行事に参加する生徒が少なく感じる。多くの生徒が参加することによって、地域の良さに触れ地域への帰属感を高める工夫する。

【評語】 成果指標（こども側）の達成度に応じて決定する。

- A：90%以上（目標達成とみなし、次年度は新たな目標を設定する）
- B：50%以上90%未満
- C：50%未満（目標や努力指標等を見直す）